

# EU Indicators

## 欧州経済指標コメント：6月英国労働統計

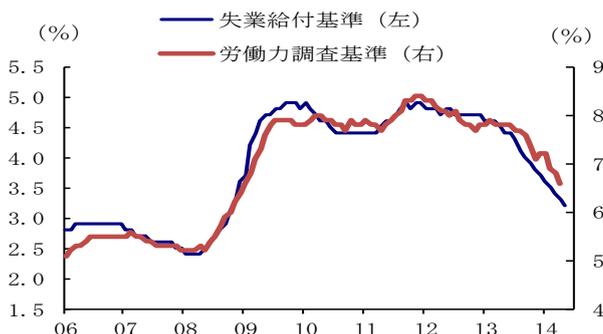
発表日：2014年6月12日(木)

～残すは賃金だけ～

第一生命経済研究所 経済調査部  
 首席エコノミスト 田中 理  
 03-5221-4527

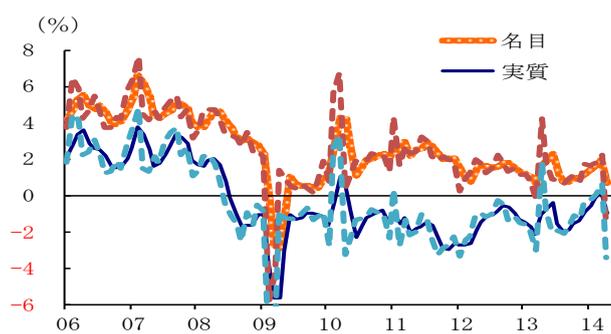
- 2～4月平均の英国の失業率（労働力調査）は6.6%と前月（1～3月平均）の6.8%から一段と低下。月次計数は1月：6.9%→2月：6.6%→3月：6.8%→4月：6.4%。新たに加わった4月計数が大幅に改善し、全体の計数を押し下げた。2～4月平均の就業者数は3ヶ月前から34万4千人増加し、過去最高を更新。増加の内訳は21万9千人がフルタイム労働者、7万3千人が自営業者、4万6千人がパート労働者。このところ自営業者の増加が目立っていたが、フルタイム労働者が就業増を牽引した。
- 同時に発表された5月の失業給付基準の失業率は11ヶ月連続で改善し、3.2%に低下（前月は3.3%）。失業給付の申請件数も前月差▲2万7千人と19ヶ月連続で減少。昨年央以降の月平均▲3万人台後半の減少ペースにやや翳りも見られるが、依然としてハイペースな受給者減が続いている。
- 順調な雇用増加が続く一方で、賃金の伸びが再び失速した。2～4月平均の全産業の週当たり賃金は前年比+0.7%と前月（同+1.9%）から上昇率が縮小。内訳は賞与が前月：同+5.6%→今月：同▲7.4%に大幅に減少したほか、賞与を除く賃金も同+1.3%→同+0.9%と伸び率が縮小した。昨年最高税率引き下げによるメリットを享受するため、賞与を中心に支払い時期をずらした可能性がある。賃金上昇は今のところ緩慢だが、今月の賃金低迷は特殊要因が影響したとみられるほか、雇用は質・量ともに改善方向にあり、労働需給がタイト化し始める条件は揃い始めている。

■英国：失業率



注：労働力調査基準は3ヶ月移動平均 出所：英国統計局

■英国：週当たり賃金・賞与（全産業、前年比）



注：実線は3ヶ月移動平均値 出所：英国統計局

■英国の失業給付・平均賃金

	2013年						2014年				
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
失業率（失業給付、%）	4.3	4.1	4.0	3.9	3.8	3.7	3.6	3.5	3.4	3.3	3.2
失業給付件数（前月差、千人）	-35.1	-38.0	-43.7	-41.6	-36.7	-29.6	-32.0	-34.8	-29.9	-28.4	-27.4
失業率（労働力調査、%）	7.7	7.7	7.6	7.4	7.1	7.2	7.2	6.9	6.8	6.6	—
就業者数（前月差、千人）	59.0	33.0	84.0	133.0	64.0	-4.0	45.0	198.0	41.0	105.0	—
就業者数（%）	71.6	71.7	71.8	72.0	72.1	72.1	72.3	72.6	72.7	72.9	—
週当たり平均労働時間（前年比、%）	1.6	1.3	0.3	0.0	1.3	0.6	0.6	0.3	0.3	0.6	—
週当たり賃金（産業計、前年比、%）	0.8	0.6	0.9	1.1	0.8	1.7	1.6	1.8	2.2	-1.7	—
賃金	1.0	0.6	0.8	1.1	0.7	1.3	1.7	1.2	1.0	0.4	—
ボーナス	-2.2	1.3	4.3	2.8	-0.9	8.8	1.3	6.5	9.3	-25.8	—

注：労働力調査基準の失業率、就業者数、就業率、労働時間は当月で終わる3ヶ月移動平均 出所：英国統計局

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。